

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：30126
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2020～2023
課題番号：20K10973
研究課題名(和文) モンゴル国一次・二次医療機関の公衆衛生看護技術の向上とサポートシステム構築の試み

研究課題名(英文) Efforts to Improve Public Health Nursing Skills and Thinking a Support System for Primary and Secondary Medical Institutions in Mongolia

研究代表者
武澤 千尋 (Takezawa, Chihiro)

札幌保健医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：50410204
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、モンゴル国の看護基礎教育における公衆衛生看護教育の現状の聞き取りに加え、モンゴル国の公衆衛生専門家としての保健ソーシャルワーカーの職務や良好実践例を収集することで、公衆衛生活動の現状を把握したことである。さらに、保健医療職のグループを編成し、公衆衛生上の課題について、ディスカッションにより共通認識した上で、複数の公衆衛生活動に取り組んだ。活動内容をグループ内で共有・意見交換することにより、自助力をいかした公衆衛生活動のサポートシステムの試用に取り組んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

公衆衛生活動の普及が強く望まれているモンゴル国において、看護基礎教育における公衆衛生看護教育の現状を確認したことは意義があるが、コロナ禍の医療従事者の多忙や研究者が渡航できないことに影響され、看護師への研修実施などで研究内容を深化することは叶わなかった。一方で保健ソーシャルワーカーと呼ばれるモンゴル国の公衆衛生専門家による公衆衛生の良好実践を確認できた。今後、保健医療従事者の連携により実用性の高い活動方法の効果を検証できれば、社会に貢献できると考えている。

研究成果の概要(英文)：In this study, a survey was conducted to understand the current state of public health in Mongolia. 1. Through a survey to understand the current state of public health nursing education in Mongolia, it was confirmed that there is a lack of public health nursing education at nursing universities. 2. In addition, information was collected on the role and good practices of health social workers as public health experts in Mongolia. Furthermore, health and medical professionals held group discussions to reach a common understanding of public health issues and engaged in public health activities. The details of the activities were shared in a closed group and used for exchanging opinions.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：モンゴル 公衆衛生活動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

モンゴル国では、これまでの保健・医療活動が成果をあげ平均寿命が延伸しているが、死因の第一位は1992年以降循環器疾患であり、高血圧や心臓病などの生活習慣病予防対策の確立が喫緊の健康課題となっている。地域における生活習慣病対策は、SDGs(持続可能な開発目標)やヘルスプロモーションの活動方法にあるように、住民参加の上で自主的な改善を可能とする公衆衛生活動が用いられる。特に一次・二次医療機関は、近隣地域の住民である患者と身近に接するため、健康的な生活習慣への行動変容を促すための健康教育を担う等、積極的な貢献が期待されるものの、現状では公衆衛生活動が浸透しているとは言えぬ状況である。また看護師数が極端に少なく、予防活動の推進役と考えられている保健師資格もないため、公衆衛生分野における看護師の技術向上への取り組みが遅れている。このためモンゴル国の看護師の技術向上は、限られた資源を有効活用し現場に即応するものとして、その必要性が高いと言える。さらに、看護師のネットワーク化が叶えば、情報共有と互助作用により、公衆衛生活動をサポートするシステムの一つとして貢献することができると考えた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的流行のため、医療従事者は多忙を極めた。モンゴルへの渡航もできない状況が続き、計画を変更せざるを得なかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、モンゴル国の看護基礎教育における公衆衛生看護教育の現状と、公衆衛生活動の良好実践を抽出することにより、モンゴル国の公衆衛生活動のありようを把握することである。その上で、公衆衛生活動を担う保健医療職のグループを編成し、公衆衛生活動に取り組むことにより、公衆衛生活動のサポートシステムの試案として検討することである。

3. 研究の方法

1) 聞き取り調査

- ・国立大学における公衆衛生看護教育について
- ・公衆衛生専門家(保健ソーシャルワーカー)の職務及び良好実践

2) 課題抽出と公衆衛生活動の試み

- ・保健医療職グループと話し合い、公衆衛生上の課題を抽出
- ・国際歯科保健講演会の実施
- ・歯科保健の教材学習会
- ・歯科保健活動の実施と保健医療職ネットワークの使用
- ・フレイル予防体操の動画作成

4. 研究成果

1) 公衆衛生看護教育及び公衆衛生活動に関する聞き取り調査

国立大学における公衆衛生看護教育について、モンゴル国立医科大学看護学部の公衆衛生看護学の教育内容について、大学からシラバスの提供を受け、教員とのZOOMによるミーティング及びEメールにより内容を確認した。公衆衛生看護分野の科目は、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、予防医学、栄養学、看護研究、家族看護学、疫学、在宅看護学、口腔看護で、関連科目を含めた9科目18単位である(2020年8月現在)。このうち公衆衛生看護学の科目としては、公衆衛生看護学および公衆衛生看護学の2科目4単位にとどまる。公衆衛生学実習は、現在のところない。「講義」では、公衆衛生看護分野の自国語(モンゴル語)の教科書がないために、教員は海外の教科書や情報源を活用して、講義準備をしている。結果として、講義準備にかなり時間がかかるなどの負担となっている。「研修」では、幼稚園や学校へのフィールドワークも含まれるが、公衆衛生看護の実践の場として、網羅できていないと感じている。授業では、自国語の教科書がないこと以外にも、全体的に学生に提示する教材が不足しているが、購入する財源に乏しい。公衆衛生看護分野を担当する教員は7名いるが、公衆衛生看護の実務経験を有する教員はいない。

公衆衛生専門家(保健ソーシャルワーカー)の職務及び良好実践について、モンゴル国立第三病院の公衆衛生専門家(保健ソーシャルワーカー)1名に、職務内容の聞き取りと職務規定書に基づく確認を行った。保健ソーシャルワーカーの職務規定書(2015年、2018年モンゴル国保健大臣令)によると、保健分野における社会的、心理的ニーズに基づく利用者中心の支援サービス開発、地域住民の課題対処能力強化・支援環境の整備に向けた専門的ソーシャルワークの提供を目的としている。集団を対象とした疾病予防活動、健康教育、生活習慣改善活動の企画も担っており、具体的な活動として、高齢者、障害者、社会的弱者などを対象とした国家プログラムや国家戦略の枠内で施策を立案、実施し、成果を評価、報告する。また、ターゲット群及び地方固有のニーズや特性に特化したプロジェクト、プログラムの提案、立案、実施などが具体的な活動として記載されている。聞き取りに協力した保健ソーシャルワーカーは、WHOのキャンペーンに準じたキャンペーンの企画・実施、障害児と家族を対象としたイベント企画・実施などに取り組んでいた。

2) 課題の抽出と保健医療職のグループを活用した公衆衛生活動の試み

保健医療従事者（医師、看護師、保健ソーシャルワーカー）研究者によるディスカッションを行い、公衆衛生上の課題として、子どもの歯科保健、フレイル予防、糖尿病対策が抽出された。

その後、実施した公衆衛生活動は次の通りである。歯科保健対策としては、2021年に「歯科保健セミナー」をオンライン開催した。加えて、日本で用いる歯科保健指導教材を用いて教材学習会を行った。その後、協力者22名とFacebook上の非公開グループ上で、互いの公衆衛生活動の投稿及び意見交換を実施した。フレイル予防体操についても、このグループ上で意見を集約し、モンゴル語の字幕を付した動画20分を作成した。今後は、冬季の使用についての効果検証と看護師の支援方法を抽出する計画である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 武澤千尋、吉田祐子、渡辺いつみ、澤田優美、山崎亜矢子、加藤隆、安念保昌	4. 巻 10
2. 論文標題 国際交流委員会活動報告「2023年モンゴル人医療従事者交流事業」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 札幌保健医療大学紀要	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 武澤千尋、スフバットヤ、ヤンジマエンフジャルガル、吉田理恵、杉野知恵	4. 巻 3
2. 論文標題 モンゴルの公衆衛生看護教育 - モンゴル国立医科大学看護学部との交流より -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 駒沢女子大学「研究紀要」【人間健康学部・看護学部編】	6. 最初と最後の頁 59-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18998/00001406	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 武澤千尋、土屋陽子、近藤明代、吉田理恵、榊航利
2. 発表標題 都道府県歯科保健計画にみる成人期の地域歯科保健活動
3. 学会等名 第74回北海道公衆衛生学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田理恵、武澤千尋
2. 発表標題 都道府県歯科保健計画にみる子どもの地域歯科保健活動
3. 学会等名 第74回北海道公衆衛生学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	山本 憲志 (Yamamoto Noriyuki) (70299329)	日本赤十字北海道看護大学・看護学部・教授 (30120)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 札幌保健医療大学国際交流委員会企画講演「モンゴルの保健医療」	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 ABCJ Health Promotion 主催 歯科保健セミナー	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 ABCJ Health Promotion 主催 子どもの口腔衛生指導教材学習会	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------